

[岩手県 製氷・貯氷施設回復支援事業]

海とともに生きる町・洋野町の希望の施設となる  
製氷・貯氷施設新築工事の地鎮祭が行われました

11月12日、公益財団法人ヤマト福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：有富慶二、以下：ヤマト福祉財団）「東日本大震災生活・産業基盤復興再生募金」の第3次助成先の一つである岩手県の洋野町は、平成25年6月完成を目指し、製氷・貯氷施設新築工事の地鎮祭を執り行いました。

岩手県沿岸北部に位置する洋野町は、定置網漁によるサケ漁と「つくり育てる漁業」の象徴であるウニ漁が盛んで「ウニの里」のブランドで知られる水産業の町です。しかし、東日本大震災の津波により水産関連施設は壊滅的な被害を受けました。洋野町ではいち早い水産業の復興を目指し、本年3月に八木北港に町営魚市場を再建し、復興へ大きな一歩を踏み出しました。しかし、水産業に必要な不可欠な氷を安定供給していた種市漁業協同組合が経営する製氷・貯氷施設は津波で全壊し、再建は困難な状況でした。漁業関係者からは「ぜひ町営で製氷漁業施設の整備を進めてほしい」と強い要望があがっていました。

そこで洋野町は、町営による新しい製氷・貯氷施設を計画しました。新施設の総事業費は10億4,324万円ですが、その内、岩手県、洋野町の負担分の2/9となる2億3,183万円を本助成に申請し、平成23年12月に助成を決定致しました。

地鎮祭で洋野町の水上信宏町長は「洋野町営の施設として生まれ変わるこの製氷・貯氷施設が町の基幹産業である水産業復興の希望の施設となることを切に願っています」と挨拶をされました。



【新施設】  
鉄筋コンクリート造り(一部鉄骨造り、一部2階建て)  
延床面積：1,516.27㎡  
製氷能力：71.8t／日  
貯氷能力：317t



新施設は、今年3月に八木北港に再建された町営魚市場に隣接します



「平成24年度を町の復興元年と位置づけ、町民一丸となって取り組んでいきます」と、水上町長は地鎮祭で挨拶されました